

## 我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立雄琴小学校

### ○調査目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の**学力**や**学習状況**を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や**学習状況**の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 【結果について】

#### 《概要》

- ・国語、算数、理科三教科とも、相対的に回答方法が選択式の問題は正答率が高い。一方で国語、算数理科全てにおいて回答方法が記述式の問題では正答率が低い。
- ・算数では、相対的に「数と計算」に関わる問題の正答率が高く、計算力は身につけている。一方で「図形」に関わる問題の正答率が低く、作図や空間認知に課題が見られる。
- ・質問紙調査では、全国平均と比べて「国語が好き」「算数が好き」と答えた児童の割合が高い。また「分からないことや知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができる」の項目も高いことから、学習への関心は高いことが伺える。しかし、自己肯定感が低く友だち関係に満足していない傾向があり、友だちと一緒に学習することや話し合うことに難しさを感じている児童の思いがうかがえた。

#### 《強み・弱み》

- 国語や算数の学習が好きな児童が多い。また、体験しながら学んでいく活動的な学習に対しては意欲が高い。ICT機器の操作にも慣れており、興味をもったことについて検索し、情報を収集することはできる。
- ×教科を問わず、情報量が多く回答までに時間がかかる問題の正答率が低い。また、自分の考えを文章で表現する記述式の問題になると無回答率が高くなる。
- ICTを使って集めた情報を整理したり、プレゼンテーションをしたりすることには難しさを感じている児童が多い。

### 【指導の充実に向けて】

- ◇教師主導の教える学習から児童が友だちと一緒に考え、協力しながら課題を解決する学習へと転換し、主体的・対話的な学びにつながる学習を目指す。その元となる「学習意欲」を伸ばすために、「授業」「環境」「集団」の3つの要素を整え、どの子にもあると便利な支援を意識できるように「学びのユニバーサルデザイン化」を進めていく。
- ◇ICTの活用力を高めるために、情報を整理したりプレゼンテーションをしたりと児童が主体的に学習できる活動を取り入れていく。
- ◇学級での話し合い活動や、ペア・グループで課題に取り組む学習を積極的に取り入れ、互いの違いを認めながら高め合う喜びを感じられるような居心地のよい学級づくりに努める。
- ◇読書活動を推進し、子どもたちの読書量が増えることを目指す。
- ◇少人数指導等を進め、一人ひとりに対してきめ細やかな見取りと指導ができるよう教師は研究と修養に努める。